

第2回 国分寺都市計画道路3・2・8号線沿道まちづくり協議会 議事録

【日 時】 平成19年7月17日(水)午後7時00分～午後9時10分

【場 所】 国分寺Lホール

【出席者】 協議会委員名簿参照(出席者23名)
副市長、市事務局5名、協力機関4名
傍聴者18名

(50音順・敬称略)

氏 名	所属等	区分	グループ	備考
饗庭伸	首都大学東京 研究員	6号	A	
有賀隆	早稲田大学理工学術院 教授	6号	A	
有吉重蔵	国分寺市市民生活部長	7号	B	
稲垣道子	(株)フェリックス 代表取締役	6号	B	
小口進一	国分寺市清掃施設整備等担当部長	7号	A	
神崎高義	戸倉自治会	2号	A	
清原かずと	武蔵台自治会	2号	A	
栗原進一	内藤自治会	2号	A	
神山正行	内藤自治会	2号	-	欠席
神山秀雄	国分寺市商工会	4号	A	
坂本幸雄	公募市民(並木町在住)	1号	A	
鈴木吉弘	国分寺市都市建設部長	7号	B	
高田千恵美	国分寺市立小中学校PTA連合会	3号	A	
田倉平蔵	戸倉自治会	2号	A	
寺内義典	国立館大学工学部 助教授	6号	B	
内藤孝雄	内藤自治会	2号	-	欠席
内藤豊一	内藤自治会	2号	B	
中村光利	内藤自治会	2号	B	
中村安幸	東京むさし農業協同組合	5号	B	
樋口満雄	国分寺市政策部長	7号	A	
樋口靖明	公募市民(東元町在住)	1号	B	
藤木妙子	公募市民(戸倉在住)	1号	B	
船水弘子	国分寺市立小中学校PTA連合会	3号	B	
堀口伊作	共益東部自治会	2号	B	
山根衛	戸倉自治会	2号	B	

1号委員：公募により選出された市民 2号委員：国3・2・8号線沿道地区関係自治会の推薦者

3号委員：国分寺市立小中学校PTA連合会の推薦者 4号委員：国分寺市商工会の推薦者

5号委員：東京むさし農業協同組合の推薦者 6号委員：識見を有する者 7号委員：国分寺市の職員

【事務局】

所 属		氏 名	電 話
(幹事)	政策部 政策経営課長	内 藤 達 也	042-325-0111 内線371
	市民生活部 経済課長	加 藤 美 智 子	内線392
	都市建設部 道路管理課長	栗 原 修	内線503
	緑と水と公園課長	荒 井 務	内線352
	建設課長	阿 部 崇	内線505
	環境部 環境計画課長	富 澤 守	内線438
	下水道課長	伊 藤 勘 一	内線442
	教育部 学務課長	福 島 繁 雄	内線457
(事務局)	都市建設部 都市計画担当部長	松 本 昭	内線510
	都市計画課 都市計画担当課長	増 田 聡	内線513
	都市計画担当係長	池 田 昇	内線512
	都市計画担当	小 川 登	〃
	〃	三 田 俊 子	〃
	〃	橋 口 順 子	内線387
	(協力)株式会社建設技術研究所		

(都市計画課)

Fax
E-mail

042-328-1823
toshikeikaku@city.kokubunji.tokyo.jp

【議 題】

1. 開会
2. 副市長挨拶
3. 委員紹介
4. 副座長選出
5. 議 題
 - (1) アンケート調査結果の報告
 - (2) ブロック検討会(第1回~3回)の報告
 - (3) まちづくり計画検討の進め方について
 - (4) その他
6. 閉 会

【協議内容】

1．開会（事務局）

第2回国分寺都市計画道路3・2・8号線沿道まちづくり協議会を開催させていただきます。開催に先立ちまして副市長からご挨拶を頂きたいとおもいます。副市長、よろしくお願ひ致します。

2．副市長挨拶

みなさん、こんばんは。市長は今日は別の会議に出ておりまして、欠席とさせていただきます。申し訳ございません。今日はお集まりいただき誠にありがとうございます。

昨日、新潟の方で震度6強という大きな地震がありました。私たちの国分寺市庁舎につきましてもかなり耐震性につきましては問題がありまして、あの地震が国分寺だったらと思ひ、家でテレビを見ながら、ぞっとしておりました。今回の災害でございますけれども、まず災害があつて一番必要なものはやっぱり道路です。今回のこの国3・2・8号線というのは、国分寺の中央を貫く36mの道路です。従いまして、この道路は災害時には非常に大きな役に立つと考えております。今日は、検討会を2つに分けて討議をするということになっておりますので、私の方もAとかBを見ながら、皆様のご意見を拝見したいと思ひますので、よろしくお願ひします。

3．委員紹介（事務局）

ありがとうございました。続きまして、委員紹介をさせていただきます。平成19年度に入りまして、武蔵台自治会の推薦を頂きました清原委員が今回新しく入りました。また、市役所の人事異動により、都市建設部長が鈴木に代わりましたのでご紹介させていただきます。

配布資料確認（事務局）

4．副座長選出

事務局：副座長については、今回第2回で指名するというところで、前回協議会で確認を得たところでございます。それでは、事務局から地域の市民の方として、東京むさし農業協同組合推薦の中村安幸委員をご推薦したいと思ひます。さらには専門家として株式会社フェリックス稲垣道子委員をご指名したいと思ひますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

5．議題

事務局：議事進行については、有賀座長にお願ひします。

座 長：皆さん、こんばんは。今日もよろしくお願ひ致します。冒頭、事務局の方から座長・副座長の指名ということで、稲垣・中村委員にお願ひすることとなりました。どうぞ、よろしくお願ひ致します。

早速ではございますけれども、第一回議事録が皆様のお手元にいつているかと思ひますので、今日の議題に入りたいと思ひます。

議事次第にも書かれておりますように、前半部分では幾つかご報告の部分、そして後半部分はグループに分かれた意見交換を行うということで、大きく2つに分かれています。

早速ですが、事務局の方からアンケート調査のご報告ということでよろしくお願ひします。

(1) アンケート調査結果の報告(事務局)

事務局：資料1により説明。

座 長：内容について質問があればお受けしますが、いかがでしょうか。

(質問なし)

(2) ブロック検討会の報告

事務局：資料2-1により説明

寺内先生がブロック検討会にご出席されましたので、何かコメントがありましたらお願ひいたします。

寺内委員：第1回ブロック検討会では、議論が盛り上がり、素晴らしいと思ひました。特に、こういった大きい道路については議論が難しいのですが、大きな道路と住宅地の関係を考えるときに、饅頭の“アンコ”を住宅地、“皮”の部分を大きい道にたとえて話をします。道路をつくろうというときには、“皮”の話ばかりになってしまうことが良くありますが、“アンコ”の生活環境をどのように守っていくかを考えるときに、“皮”と“アンコ”をうまく作ってあげることが大事です。第1回ブロック検討会では“アンコ”の中の話に関するご意見、ご議論が多く、“皮”の話だけでなかったことが非常によかったと思ひます。

第2回では事例を見に行きましたが、ここは生活道路が比較的90度で交わっていたので、国分寺とは少し様子が違うところがあり、国分寺なりの回答を考えていかなければならないと感じました。事例では、歩行者と車、自転車と歩行者とを分離する考え方でありましたが、人と車と自転車と緑とをうまく共存させるやり方など、国分寺なりのうまい“皮”の作り方ができないかと思ひます。第3回は出席しませんでした。資料を見ますと参加者が少なくなっていることが気になります。各地域で色々な方が意見を出し合えるよう、多くの参加者があると良いと思ひます。

事務局：資料 2-2 により説明

座長：ここまでは報告ということで、この後は、グループ毎に意見交換をお願いしたいと思います。これに先立ち、今日の意見交換では何を指して議論いただきたいかといいますと、第 1 回協議会の後、ブロック検討会でまち歩きや意見交換を行って頂いた中で、実際にまちをあるいて気づいたこと、大きな道路が出来ることによる様々な不安があると思います。まだ、皆さんの中には今日の報告になかったような不安事項もあると思いますし、ご意見によってはどっちに重みをつけていけばわからないところもあると思います。そうした意見について、計画をしていく上ではどこに優先順位をおくのかを決めて、責任を持った議論を進めていかなければならないと思います。今は、不安や意見を出している段階です。まだ第 2 回目の協議会ですから、皆さんが率直に不安に思うことや大事に思っていることをこの場に出してほしい。また、歴史や街並み、景観をどうしていったらよいのかといった意見は出ていないので、そうした視点も持ってほしい。是非、この資料に載っていない意見を出してほしいし、載っている意見を補足してほしい。グループの中で意見を出し、その結果をそれぞれグループで発表しまとめて頂きたいと思います。責任を持って計画をしていく立場として遠慮なく議論してほしいと思います。

【意見交換会】

A グループ主な意見

清原委員：先生の言う「まちの顔」とはどのようなイメージか。

座長：今の段階で歴史の話などは出ていない。遺跡があるという話は道づくりに反映させる際に出していただいたほうが良い。

清原委員：交差している国 3・4・6 号線の車道が広くて歩道が狭い。国 3・2・8 号線の整備により、国 3・4・6 号線の交通量が格段に増えると思う。五日市街道も同様なので、既存の道路も一体として考えていただかないと困る。

神崎委員：アンダーパス、オーバーパスの部分は東西の横断を出来るだけ自由にしてほしい。バリアフリー等も考慮し、横断を可能にしてほしい。生活道路などに関しても横断箇所の検討を含め、生活環境が分断されないような方向性で考えていきたい。子供達に事故が起こらないように。

樋口委員：道路が斜めに交差するというので、残地の問題が課題になると思う。残地の活用については、課題として捉えておく必要があると思う。

神崎委員：横断箇所の適正な配置が必要だと思う。府中の事例では、既存の横交差点等に横断箇所が設置されていた。今まで横断箇所がなかったところについても設置を検討する必要があると思う。

田倉委員：福祉施設・小学校・障害者施設・子供も道路整備の際に考慮してほしい。

高田委員：通学路の問題に関連して、学区域がどのようになっているのか知りたい。残地の補償の問題、五小周辺になるべく緑を創出することも課題として挙げておきたい。

栗原委員：どこに横断歩道をつけるのかを早く提示してほしい。もっと具体的な話をしていきたい。

清原委員：100年後を見据えた道路、利便性を考え、安全かつ便利な道路を作らなければならないと思う。

歩道橋やアンダーパスは本当に利用され、効果があるのか疑わしい。無駄な投資はしないでほしい。むしろ、側道と生活道路との接続部の危険性など、周辺道路の見直しをしないと安全が確保できない。国 3・2・8 号線だけではなく、国分寺市全体の道路網との関係を考えていくべきだと思う。

神山委員：親戚が計画線内に住んでいるが、残地補償という面では、少しばかり土地が残っても困る。

神崎委員：本当に側道が出来るかどうか疑わしい。

鈴木委員：道路は東京都がつくることは事実だが、国分寺市として、この道路をどんな風にしたいのか、その視点が欠けていると思う。

小口委員：都市環境については、もっと大きな視点を持たなければならない。地球環境の問題（CO2、大気汚染、騒音、振動）を解決していかなければならない。道路の周辺の住民はこれに悩まされる。

そのためにも超低騒音舗装等、最新の技術を道路整備に活かしてほしい。

横断歩道については、自然環境の問題を考慮に入れるとできるだけ車を止まらずに速く市内を通過してほしいということは事実。交差点の数は多ければよいというものでもないといった視点も入れたい。

栗原委員：遺跡や文化財の活用についても考えていくべきだと思う。緑も大切だが、沿道の商業的な土地活用が出来るようにしないと道路をつくる意味がない。経済効果なども含め検討していくべき。

座長：文化財や緑については、ただ「ある」と「活かす」のは異なること。緑と人とをどうつなげていくかが重要。

神山委員：国 3・2・8 号線以外の道路の見直しが経済効果を考えると大切だと思う。

小口委員：車が休憩できるような施設も考えていきたい。

座長：まちと道路の関係性について考えていかなければならない。次回以降の議論では安全や環境といった視点も加えていくべき。

【B グループ 主な意見】

山根委員：自分の生活環境に近いところでの議論を主体としてしまうと、地域によって考え方が異なる。全体の話ではなく自分の身近なところについて話し合う方がや

りやすい。

中村(安)委員：自分の家の前の道は、戸倉地域の人が西国分寺へ行くための主要な動線である。国 3・2・8 号線にもほぼ直角に交わるから、是非残すべき。

藤木委員：ブロック検討会は 5 つに分けるという話であったが、実際には 2 班で行っている。いつになったら分けるのか。分割して行う場合、会議は違う場所、違う時間に行うのか。

樋口委員：議論する対象が広すぎて、何の議論をしていいのかわからない。テーマを決めて進めた方がよい。

船水委員：平面を見ているだけでは立体的なイメージがわからない。今後、ブロック毎に意見を吸い上げていくのであれば、紙でも良いから具体的(立体的)なものを示してもらいたい。

稲垣委員：厳密なものでもなくても良いから、問題点を見つけやすいように、模型などがあれば議論しやすいと思う。

寺内委員：模型については立体的なイメージと斜めの道路が接続する箇所のイメージが湧くものであれば良いと思う。

藤木委員：有志で作ったものをブロック協議会に持ちあったらどうか。

中村(安)委員：模型を作っても、実際のイメージと異なる場合もある。完成後に“こんなイメージではなかった”という話になっても困るのではないか。

藤木委員：個人個人、イメージが異なっても良いのではないか。考えたことが伝わって良いと思う。

中村(光)委員：段差ができる箇所などを地図に落とせば、イメージが湧くのではないか。

有吉委員：生活道路が約 50 本分断される中、それぞれの生活道路について利用状態がどうなっているかを整理し、議論を進めるべき。

樋口委員：生活道路については、現状をもっと調べた方がよいのではないか。それぞれの生活道路の車の流れ、交通量などを把握した上で、接続について考えるべき。

寺内委員：シミュレーションを行うことは非常に大切なことだと思う。

中村(光)委員：地域の分断を踏まえ、実際に不便になるところを具体的に検討するほうが良い。特に、普段の生活で利用頻度の高い道路については、道路の拡幅などを検討していくべき。沿道 100m の範囲でできることを考えていくべきだと思う。そのためには、ブロック毎に必要な道路を見つけ出し、接続すべきか等を含め具体的な検討をしていくことが大事だと思う。

寺内委員：道路を接続し拡幅して、便利にすればするほど交通が集中する。利便性と安全性のバランスを考えることが大事。

鈴木委員：道路の拡幅については、分断される 1 本 1 本の生活道路の国 3・2・8 号線との接続方法と合わせて考えていく必要があると思う。

中村(光)委員：沿道 100m の範囲全てを見据えて、道路の拡幅を考えた方がよい。

寺内委員：道路を拡幅しなければならないところがある反面、閉じなければ（車の流入を防がなければ）ならない道路も出てくる。生活環境とのバランスを考えて検討しなければならない、非常に難しい問題であると思う。

内藤委員：道路ができた時、全てが便利なわけではない。どこかが便利になれば、別のどこかが不便になる。バランスのとれた妥協点をどこかに見つけながらみんなで考えていく必要があると思う。

樋口委員：例えば、アンダーパスの区間を長くすれば横断路をつくることができる。そうした視点も必要ではないか。

船水委員：どんどん情報提供してもらわなければ、議論にならないし不安である。事務局は資料を出して議論できるようにしてほしい。

樋口委員：鋭角に接続する箇所は横断距離が長くなる。人々の動線を考えながら議論していく必要があると思う。

中村(安)委員：生活道路については、鋭角の接続や直角の接続など、国 3・2・8 号線との接続特性に応じた議論が必要であると思う。

寺内委員：生活環境を守る道路、生活の利便性を高める道路など、生活道路については両方の視点でブロック毎に議論を煮詰めていく必要があると思う。

【グループ発表】

A グループ：饗庭委員

たくさん意見がでまして、これを全て紹介すると時間がかかってしまいますので、本当にポイントだけをかいつまんで紹介します。最初に出たご意見は、大きな道路ができた場合に周りの環境は良くなるか悪くなるか、きちんと考えないといけないということでした。また、中央線をオーバーパスする部分をどういう風にするかというのをきちんと考えた方がいいという意見もありました。

具体的な議論で一番気にされているのは、横断歩道が国 3・2・8 号線をどういう風に横断するかということでした。例えば 200m ずつ機械的に、道路を横断する場所を考えてみると、それほどたくさん選択肢がないということが分かりました。

あとは、この道路ができることによって、地域のまちづくりに、例えば歴史、環境をどういう風に活かしていったらいいのかという意見もありました。あとはやはり道路ができることによる経済効果といいますか、沿道に新しいお店ができてくる、そういったお店はどのようなものにするかということも考えていく必要があるということで意見が出されました。

非常に簡単なまとめですけれども、これはまた事務局がきちんとまとめて頂けると思いますので、楽しみに待っているという形で、今日はこのような話で終わります。どうもありがとうございました。

B グループ：寺内委員

B グループの方ですが、まず地図の方から説明すると、例えば、西武線のアンダーパス部のところ、もう少しアンダーパスをのばして横断を確保すればどうかという意見を頂きました。それから、内藤神社のもう少し南のところの道路は、この地域の中で要になっている、しかも交差角度もそんなに悪くないということで、こういう所の話が大事ではないかという話がありました。他にも、アンダーパス部など具体的にどういうイメージになるのか良くわからないというご意見がありました。

また、これは最初に出た話ですが、資料 2-2 の前に、まず進め方について色々言いたいという話がありました。まず、とにかくブロックの中で話をしたいという、かなり具体的な話をしていきたいという意見、そのために、例えば、今言ったようないろんな議論をしたりとか、鋭角に道路が入っている問題であるとか、そういった模型であったりとか、もう少し大きな図面であったりとか、そういったようなものを使って議論を行いたいという意見を頂きました。

また、大前提としてブロックで参加者をもっと増やしていかないと、ブロック別の議論はできないということがあります。その他にも資料として、各ブロック別でどのような性格の不便が起きるのかを少しシミュレーションした資料をつくる必要があるのではという意見もありました。あと資料 2-2 に載っている論点の補強として、国 3・2・8 号線と交差する道路は、現状のままでは少し不安なので、もう少し手を加えた方が好ましいという議論と、その反対に何本かの道路は車の進入を防止するために閉じて、“アンコ”の中を守るという意見もありました。

他にも色々なご意見を一杯頂いているのですが、具体的な話については、もっとブロック検討会の方に入って行って、議論しないといけないと思っています。

座 長：予想を上回る意見を出して頂いたと思います。まだまだ消化不良だと思いますし、残り 10 分ほどになって細かい意見、大事な意見が出てきたと思います。全体協議会で議論すべきこと、ブロック検討会で詳細に検討すべきこと、たたき台も含め、資料を充実させてほしいという意見もありましたので、次のブロック検討会でどのような議論をして頂くかを、事務局には今日の意見を踏まえて整理して頂く必要があります。また、地区ごとにまちと道路の関わり方が異なるという意見も出てきました。ブロック検討会毎に重みが変わってくると思いますので、本日、意見交換されたものを整理して頂き、次のブロック検討会で検討して頂きたいと思います。

(3) まちづくり計画策定の進め方について

事務局：資料 3、4 により説明。

船水委員：市外の高校に通っている国分寺市の高校生は多いと思います。国分寺高校の生徒に聞いてもあまり意味がないのではないのでしょうか。また、学校行事のタイピングで実施とありますが、実施時期が違う場合があるということでしょうか。

事務局：必ずしも一斉に行うとは考えていません。それぞれの学校の都合に合わせて行いますが、内容は同じものを予定しています。

国分寺高校の生徒は、市内の生徒の割合は少ないかもしれませんが、国分寺市内を毎日通っており、市民ほどではありませんが、市内の状況について理解はあると考え調査対象としました。

座長：市内在住の高校生をピックアップするというと、HPなどが良いのでしょうか。

船水委員：高校生をピックアップして郵送するなど方法はあると思います。

寺内委員：市内在住の高校生を対象とするのであれば、夕方、駅を利用する高校生を対象とすればある程度可能ではないのでしょうか。

また、国分寺が魅力的なまちかどうか、外の地域も国分寺も知っている若者からみた意見が大切で、国分寺高校の生徒や駅を利用する高校生を対象とするなど、色々やってみてはいかがでしょうか。

座長：色々な方法があると思うので、学校単位に縛られずに事務局で検討してください。

高田委員：調査対象について、五小の生徒の視点も必要ではないのでしょうか。子供にとって、大きな道路ができて不安に思うことや小学生の目線での国分寺のイメージなど、対象を小学生にまで下げて意見を聴いていただければと思います。

座長：ご意見として賜り、事務局で検討します。

副座長の方々から何かありますか。

中村(安)委員：4つの課題全部が取り上げられなかったことが一番残念です。今後は、議案に従い、1時間なら1時間以内で議論して頂ければよいと思います。

稲垣委員：全体協議会とブロック検討会の役割分担について、ブロック検討会もブロックに分かれての議論になっていなかったという話もあったので、参加人数が増え、ブロック検討会らしくなっていけば、この協議会との役割がもう少しはっきりしてくると思います。次回はそのような形で進められればと思います。

6. 閉会（事務局）

次回の協議会は、第4回ブロック検討会以降で概ね9月下旬を予定している。